

2月17日のウクライナ情報

安齋育郎

●ザハロワ外務報道官;米国の野望はウクライナの破壊と莫大な犠牲者につながった(2023年2月13日)

米国の新自由主義者はウクライナを破壊し、この国の人々を根絶し続けている、とロシア外務省の公式代表者マリア・ザハロワは述べている。

ザハロワ: 米国の野望はウクライナの破壊と莫大な犠牲者につながった。

米国とそのパートナーがキーウに戦場で、より積極的になることを求めたというワシントン・ポストの記事にコメントして、外交官は西側がロシア連邦との戦争に「最後のウクライナ人まで」関心を持っていることを強調した。

「アメリカの覇権への野心は途方もない犠牲につながる」とザハロワは付け加えた。

以前、軍事界に近い WP(ワシントン・ポスト)筋は、ホワイトハウスは、交渉プロセスを再開する前に、ウクライナの指導者が可能な限り多くの領土を占領することを要求していると述べた。



●トルコ地震:ナニコレ?(2023年2月14日)

地震の際にトルコの家が半分に折りたたまれた理由について簡単に説明します。

トルコではすでに建設業関係者 112 人が拘束されている。映像見てびっくり!

<https://twitter.com/i/status/1625192879944785921>



●パリでウクライナへの武器供与反対デモ(2023年2月14日)

「ウクライナには戦車も飛行機もミサイルもありません。」

このモットーの下、ウクライナへの武器供給に反対する集会在パリで開催されました。その過程で、抗議者たちは NATO の旗を切りました。

<https://twitter.com/i/status/1625193403049992193>

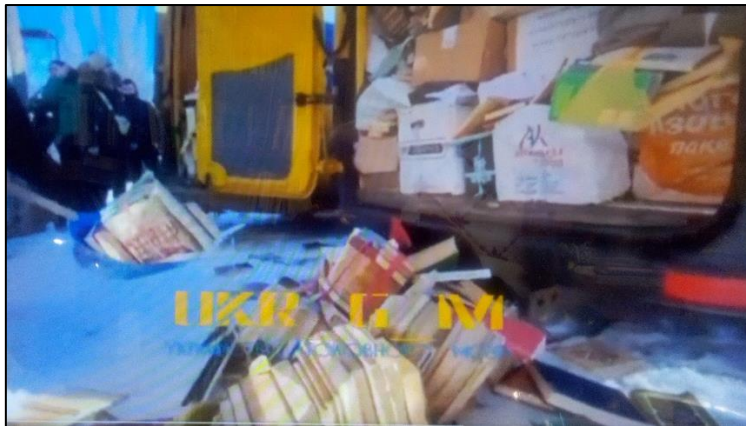


●ナチス流の焚書 in ウクライナ(2023年2月14日)

ウクライナのスヴィドモは、ロシア語の文学と戦っている。

毎日、キエフ政権は、ナチス・ドイツの暗い過去の慣習をますます修復しています。

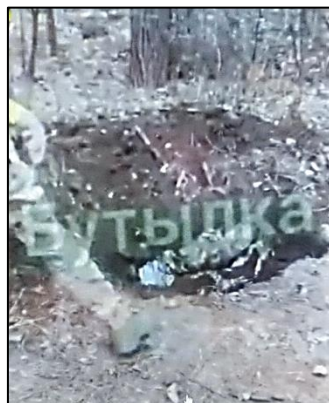
<https://twitter.com/i/status/1625194713715466240>



●ウクライナ軍、戦闘拒否者を生き埋め？(2023年2月14日) これもビックリ！

これは、ウクライナ軍がメディアでゼレンスキーのために戦うことを拒否した兄弟を脅迫する方法です。

<https://twitter.com/i/status/1625196451914743808>



●オランダでも武器供与反対デモ(2023年2月8日)

オランダでは、ウクライナへの武器供給に対する大規模な抗議行動。

デモ隊はまた、対ロシア制裁により倒産した数百の閉鎖農場の復旧を要求している。

<https://twitter.com/i/status/1623264446738227201>



●戦争機械で中国を包囲しながら気球で興奮するアメリカ(投稿=2023年2月12日、ケイトリン・ジョンストン<年2月4日>)

オースティンのジャーナリスト、クリストファー・フックスが「記憶に残る最も愚かなニュースの一つ」と呼んだもので、木曜日にアメリカ領空で発見され国防総省が中国スパイ風船だと主張するものに関しアメリカの全ての政治/メディア支配階級は実存主義的メルトダウンを起こしている。

アントニー・ブリンケン国務長官は風船発見後、予定された中国訪問を中止した。マスメディアはこの話題を息が切れるほど興奮して報じている。対中国タカ派評論家連中は使えるあらゆるプラットフォームで日がな陣太鼓を叩き、この出来事に十分積極的に対処しなかったとバイデン政権を非難した。

金曜日「アメリカ人が理解する必要がある重要で、この委員会で超党派的な形で我々があばこうとしているのは中国共産党による脅威が東アジアでの遠い脅威や台湾に対する脅迫だけではないことだ」と米下院中国特別委員会委員長マイク・ギャラガーがフォックスニュースで言った。「まさに本土への脅威だ。アメリカ主権に対する脅威だ、私が住んでいる場所中西部に対する脅威だ。」

「空中の巨大中国気球や我々の携帯電話の何百万もの中国 TikTok 風船」とミット・ロムニー上院議員が Twitter で書いた。「彼らを全て締め込もう。」

気球は確かに中国のものだが「気象学や他の科学研究のために使われる民間のもので」コースを外れ遠くに吹き飛ばされたただだと中国外務省は言う。これはもちろんウソであり得る。全ての主要政府は常にお互いを秘密に調べており中国も例外ではない。だが国防総省自身の評価はこの風船は「中華人民共和が地球低軌道の衛星のようなものを通して集めることが可能なものに付加する重要な付加価値をもたらさない」。

それでアメリカがあらゆる可能な機会に中国を秘密に調べているのを全員知りながら、どう考えて

も、スパイ行為として、さほど価値がないだろう気球を巡って全員正気を失っているのだ。アメリカのスパイは、中国政府が彼らを阻止するため取っている措置のため、作戦遂行は以前より遙かに困難で、中国で要員採用にも苦労しており、2001年にはアメリカのスパイ航空機が中国の海岸線で中国軍ジェット機と衝突してパイロットが死亡し、大きな国際事件になったとアメリカ当局はマスコミに文句を言っている。

アメリカは自分が選んだどんな国であれスパイするのは国家主権だと考えており、平均的アメリカ人も多かれ少なかれ同じように見る傾向がある。これは例えば国内対外国の監視を巡る論争で強調される。アメリカ人がエドワード・スノーデンの暴露に憤激したのは諜報機関が監視をしていたからではなく、アメリカ国民を監視をしていたからだ。外国人をスパイするのは何ら問題ないと思われているのに外国人がやり返すと芝居がかって反応するのはいささか愚かだ。

ジェイク・ワーナーが Responsible Statecraft でこう説明している。

機微なアメリカ・サイトを外国が監視するのは新しい現象ではない。「核時代の黎明期以来、人工衛星監視体制の出現で、とうの昔に日常茶飯事になっており、それは人生の現実だ」と私の同僚で前 CIA アナリストのジョージ・ビービは言っている。

アメリカによる外国監視も同様に非常にありふれたことだ。実際諸大国が諜報情報を収集するのは国際関係上の平凡で普遍的事実だ。アメリカ諜報機関がドイツのアンゲラ・メルケル首相の携帯電話を盗聴した時のように主要諸国は自身の同盟者さえスパイする。

典型的に、ライバル勢力によってこのような監視がアメリカに向けられる時でさえ、アメリカ人の安全を脅かさず、秘密が最大の重要性である場所にとって管理しやすい危険なのだ。だがアメリカ・中国間緊張が急速に増加する状況では、このような予見可能な出来事があつという間に危険な紛争に発展しかねない。

今この全てを遙かに少ない注目しか得ていないもう一つのニュースと比較しよう。

「アメリカが中国を包囲する円弧を完成するためフィリピン基地に関する合意を確保」という題の記事で、BBC は帝国が中華人民共和国を巡って構築している既に立派な軍事輪縄に更に多くの施設を加えると報じている。

「アメリカはフィリピンで、南シナ海や台湾周辺で中国を監視するための重要な一等席となる場所、更に四つの追加軍事基地利用を確保」と BBC のルパート・ウィンフィールド・ヘイズが書いている。「この協定でワシントンは北の韓国と日本から南のオーストラリアまで手を広げ、アメリカ提携円弧の空白を埋めた。最大の潜在的発火点である台湾と南シナ海の二つと国境を接するフィリピンはこれまで欠けていた部分だった。」

「アメリカは新基地がどこにあるか言わないが、それらは中国を数に入れなければ台湾に近い唯一の広大な島フィリピン北端のルソンであり得る」とウィンフィールド・ヘイズは書いている。

フィリピン軍の好意によってアメリカがどのように軍事包囲を完成しているかを示すのに役立つ図を BBC が提供している。

アメリカ帝国は、アメリカを取り巻く国々や水域で中国がそうするの決して許さない形でワシントンは軍事基地と戦争機械で長年中国を包囲している。大国間のこの益々敵対的な対立でアメリカが攻撃側なのは疑いようがない。それでも我々全員、気球に関して幻覚症状を起こすよう意図されている。

アメリカが中国に対しどのように攻撃的か示すよう私に依頼していただければ、戦争兵器で中国を包囲しているあらゆる文書化された手口をご説明できる。帝国擁護者に、中国がアメリカに対しどのように攻撃的か示すように頼めば、連中は TikTok と気球についておしゃべりし始めるだろう。

こうしたことは等しくはない。アメリカ人は外部の敵対的外国の脅威を監視するのをやめて、少しより本土近くを見始めるべきだ。



●スコット・リッター:NATO は世界にとっての自殺薬。ロシア勝利を祈る (Finian Cunningham、2023年1月23日、Strategic Culture Foundation)

アメリカが主導する NATO 軍事同盟がロシアを打倒するという究極の目的でウクライナでの戦争を推進していると元海兵隊士官スコット・リッターは言う。

紛争は欧米メディアが我々に言うようなウクライナ防衛とは無関係で、常にロシア打倒が狙いだ。

今や既に NATO はロシアと直接戦争しており、ウクライナへの軍需品供給で兵站上の中心的役割を果たしているドイツやポーランドのような NATO 加盟諸国の標的をロシアは攻撃するあらゆる権利がある。

ワシントンと NATO 同盟諸国は長く続く対立に外交的、政治的解決を見いだそうとするのではなく無謀に軍事的勝利あるいは敗北の危険を高めている。アメリカが主導する対ロシア NATO 戦争のためウクライナは無神経に代理として利用されている。

リッターが指摘するように、NATO は世界にとって自殺薬だ。その狙いが推進されれば、その結果は核戦争になるロシアとの全面総力戦、つまり惑星の破壊だ。

だから全ての平和主義の人々は国籍にかかわらずロシアがウクライナでこの紛争で勝利し、NATO の思惑を挫くよう祈るべきなのだ。リッターは主張する。NATO の戦争計画は 2014 年キーウでのクーデターとネオナチ・ウクライナ軍の強化で何年も前から準備されていた。ウクライナ軍総司令官ヴァレリー・ザルジニーは第二次世界大戦でのナチ協力者で大量殺人犯のステパン・バンデーラ信奉者だ。これが今アメリカとヨーロッパが、対ロシア戦争計画を遂行する上で協力している人物なのだ。

幸いロシアは戦争に勝つだろうとリッターは予測している。これは戦争にそれほど膨大に投資しながらも歴史的敗北を味わう立場にあるアメリカ主導の西洋列強にとって悪夢のシナリオだ。

だが世界を大惨事の瀬戸際に押しやっているのはアメリカとその同盟諸国であることが広く理解されるべきだ。

記事原文の url

<https://strategic-culture.org/news/2023/01/23/scott-ritter-nato-is-suicide-pill-for-world-pray-that-russia-wins/>

※安齋注:西側の報道番組は、時に「呆導番組」と揶揄される。西側にはもちろん日本も含まれる。あるツイッター

はこう言っています。「ウクライナ(& 米英 NATO)にとって都合の悪いことは、すべて陰謀論。正しいか間違っているかは一切考慮されずに、臭い物に蓋をするがごとく切って捨てられる。そんな時代に生きています。まったくもって腹立たしい」。

●ロシア軍が「少しずつ優勢に」 ウクライナ東部バフムート周辺で徐々に支配地域を拡大(2023年2月13日)

「壁のそばから離れないで。素早く動いて。一列で。一度に数人ずつ」

戦闘で荒廃したウクライナ東部バフムートの軍事拠点へ私たちを案内するウクライナ軍の護衛兵から、細切れの指示が飛んだ。ここはかつて、スパークリングワインで有名な街だった。

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領はこの東部の街を「我々の要塞(ようさい)」と呼んでいる。ロシア軍はこの6カ月、バフムートを占領しようとしてきた。そしていま、侵攻開始から丸1年となる今年24日を前に、ロシア軍はバフムートを破壊すべく猛攻を強めていると、ウクライナ側はみている。

私たちはウクライナ兵の指示に従い、がれきが散乱する凍った通りを急ぎ足で進んだ。頭上には澄んだ青空。ロシア軍の無人ドローンにとって、理想的な天候だ。

私たちが道路を横断した直後、背後にロシア軍の砲弾が2発落ちてきた。振り返ると黒煙が上がっていた。私たちは進み続けた。

無差別なのか、それとも私たちを狙ったものかは分からない。バフムートでは動くものすべてが標的だ。兵士だろうが、民間人だろうが。

何時間たっても砲撃の音は止まない。上空ではロシアの戦闘機が轟音(ごうおん)を立てている。私たちから最も近い場所にいるロシア軍との距離はわずか2キロだ。

市内の一部では市街戦も起きている。気温が氷点下にまで落ち込み、弾薬が少なくなっている中、ウクライナ軍はこの街をまだ維持している。

「あらゆる種類の弾薬、特に砲弾が不足している」と、ウクライナ陸軍第93機械化旅団のミハイロ大尉は言う。大尉のコールサインは、「多言語を話す者」などを意味する「Polyglot」だ。

「西側同盟国の暗号化された通信機器や、部隊移動用の装甲兵員輸送車も必要だ。それでもこちらは何とかやっている。限られた資源でいかに戦うか。これがこの戦争で得た大きな教訓のひとつだ」

弾薬をめぐる問題は、ウクライナ軍が60ミリ迫撃砲でロシア軍の陣地を狙う場面で明らかになった。1発目は大きな音を立てて飛び出したが、2発目は発射されなかった。

煙がシューシューと音を立てながら立ち上った。兵士が「不発だ」と叫び、迫撃砲部隊は避難場所に逃げ込んだ。この弾薬は外国から送られてきた古いものなのだと、兵士は私たちに説明した。

バフムートの戦いは、大きい戦争の一部であると同時に、それ自体がひとつの戦争だ。ロシアの侵攻開始以来、特に激しい戦闘の多くがここで起きている。ロシア軍は1メートル、また1メートルと前進している。1人、また1人と犠牲者を出しながら。ロシアの悪名高い民間雇い兵組織「ワグネル・グループ」の戦闘員が次々この戦地へ送り込まれている。ロシア人の遺体が散乱しているとの報告もある。

ロシア側は現在、バフムートに通じる主要道路を実質的に支配しており、残されている裏ルートは細い補給線のみだ。

「(ロシアは)昨年7月からこの街を奪おうとしている」と、第93機械化旅団の広報担当イリナ氏は言う。

「いま、少しずつ向こうが勝ちつつある。向こうの方が資材が豊富なので、長期戦になれば向こうが勝つだろう。いつまでかかるかは言えないが」

「それまでに、向こうが資源を使い果たすかもしれない。頼むからそうなってもらいたい」

私たちは、敵に見つからないよう慎重に隠された発射拠点から、バンカーへと移動した。ここでは発電機がうなり、ストーブが温かい。兵士たちは居場所が察知されないよう、煙が外へもれないように気を配っている。戦争という日常の一部だ。ここで出会った兵士たちの間には、この先も戦い続けるという、静かな決意が漂っていた。

「(ロシアは)我々を街から撤退させるために包囲しようとしているが、うまくいっていない」と、迷彩服姿のイホル指揮官は話す。

「街は我々の支配下にある。砲撃を受け続けても、輸送手段は機能している。当然こちら側も損失を被っているが、何とか持ちこたえている。勝利に向かって進み続けるという、その選択肢しかこちらにはない」

しかし、選択肢はほかにもある。手遅れになる前にバフムートから撤退することだ。しかし、現場で街を防衛する兵は、この案を歓迎しない。

「本部からそうした命令があれば、仕方ない、命令は命令だ」と、ミハイロ大尉は言う。

「だが街から撤退する必要があるなら、何のためにこの数カ月持ちこたえたんだ？ いや、撤退はしたくない」

ミハイロ大尉は、バフムートのために命を落とした人々についても語った。「ただウクライナを愛していた、勇敢で善良な男たちが大勢いた」と。

何より、バフムートを防衛してきた部隊が撤退した場合、ロシアにクラマトルスクやスロヴィヤンスクといったウクライナ東部の大都市への進攻の道を与えてしまう。

ロシアは、東部ドンバス地方や南部の前線地帯で攻撃の手を強めている。ウクライナ当局は、すでにロシアの新攻勢が始まっていると指摘する。

ロシア政府は侵攻開始1周年となる2月24日に向けて、歩を進めている。「ロシアは日付や、いわゆる『戦勝記念日』というものに強くこだわっているのだ」と、ミハイロ大尉は言った。

しかしバフムートをめぐる消耗戦はロシアを疲弊させるかもしれないと、ウクライナのヴィクトル司令官は話す。長身で細身のヴィクトル司令官はバンカーで、ロシア製の弾倉を手にとった。

「ロシアは今、防戦しないで、ひたすら攻撃していく。数メートルずつ進んではいるが、こちらは極力、領土を奪われないようにしている。敵をここに引き留めて、ここで疲弊させる」

そうかもしれない。

行くところに行けば、バフムートにもまだ人々の暮らしが残っている。

寄付された食料を通り過ぎ、「不屈センター」と呼ばれる避難所の扉をくぐると、強い熱と光に包まれる。かつてボクシングクラブだった場所を生活支援センターに作り替えたもので、地元住民が携帯電話を充電したり、温かな食べ物や、他人との交流でひと息をつくために使われている。

私たちが訪れた時、「不屈センター」は混雑していた。ストーブの周りには高齢の女性たちが集まり、若い男の子が2人、リングに座ってテレビ画面にくぎ付けになり、戦闘ゲームをしていた。

水も電気もないバフムートに、約5000人が残っている。多くが高齢で、貧しい境遇だ。ウクライナ人の同僚が暗い表情で、「一部は親ロシア派で、ロシア人が来るのを待っている」とつぶやいた。

心理学者のテティアナさん(23)は、弟妹の面倒を見ながら、ここでは誰もが自分自身の闘いをしてしていると話した。テティアナさん自身は、86歳の祖母が移動できず、自分を頼りにしているため、バフム

ートに残っているという。

「多くの人が神に祈ることでどうにかやっている」とテティアナさんは話す。

「信仰は助けになる。人間であることを忘れた人も、攻撃的な人もいる。動物よりもひどいふるまいをし始める

外界では、この壊れた街をめぐる闘いが激化しており、爆撃の音がドラムのように鳴り響く中、私たちはバフムートをあとにした。



●戦争は行きたくないが、ウクライナ軍は兵が必要だ(2023年2月15日)

※:安齋注:何が何でもしよっ引いてやるっていう感じです。ノルマがあるんでしょうかね。

<https://twitter.com/i/status/1625642848816357376>



<https://twitter.com/i/status/1625857844963840005>

※ツイッターのコメント: アゾフ連隊は、投降しようとしたウク兵を後ろから撃ち殺したりしているから、単なる戦死だけによる欠員補充じゃないんですね…

そのうちウクライナ国民全員動員になるのか。

●世界が沈黙する、ウクライナ軍の化学兵器使用(2023年2月15日)

<https://twitter.com/i/status/1625647121046306816>

※安齋注:スコット・リッターが豊富な知識を供給してくれます。



●ドイツのデモの「ユーモア」(2023年2月16日)

※安齋注:外務大臣太鼓と首相太鼓。叩いてよし!

<https://twitter.com/i/status/1626127755992784898>



●ワグナーはバフムートの肉挽き器から恐ろしい映像(2023年2月16日)

棺桶に詰め込まれた大量のウクライナ軍兵士の死体は、キエフに送られるのを待っている。
現在、多数の捕虜と負傷者を取り調べ中



●プーチン大統領の即決、小児医療センター建設(2023年2月16日)

ザポロージャ州のバリツキー知事代理が、ザポロージャ州とケルソン州の地域センターがまだウクライナ側の支配下にあるため、小児医療センターがないことをプーチン大統領に伝えると、プーチン大統領は医療施設を開設することを議論する会議で、同地域間小児医療センター建設案を支持した。

